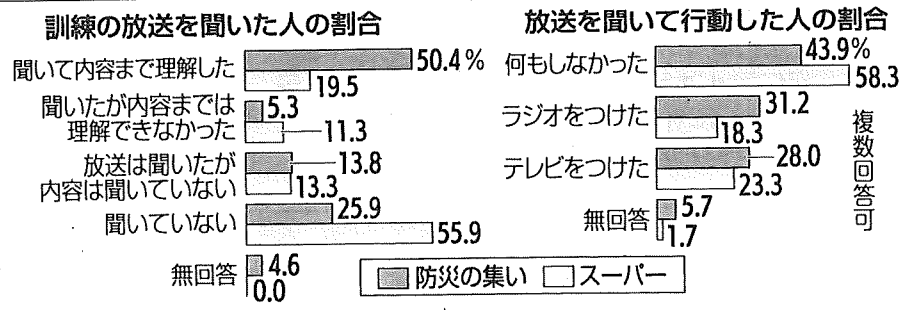


三原市の災害想定特別番組

市民の視聴 2割止まり

三原市や県立広島大(広島市南区)などは30日、西日本豪雨1年を迎えた6日に実施した防災情報の伝達



訓練についての市民アンケートの結果をまとめた。回答した477人のうち、6割以上の288人が訓練を知っていた。市の訓練予告を知り、テレビやラジオで情報収集したのは21・5%の103人とどまった。結果を受け、市などは訓練を重ね、災害時のきめ細かな情報収集を促す考えだ。市は6日朝、屋外スピーカーやFM告知端末を通じて訓練を放送で予告。午前9時からコミュニティFMやケーブルテレビが流す災害想定の特設番組を視聴するよう呼び掛けた。アンケートは特別番組終

了後の同日、市内のスーパー2店の利用客と、市が開いた防災の集いの参加者を対象に実施。「訓練放送を聞いた」と回答したのは、集いの参加者の69・5%に上ったが、スーパー利用客では44・1%にとどまった。訓練予告を聞いたが、特別番組を視聴しなかった割合も防災の集いが43・9%、スーパーが58・3%といずれも高かった。市危機管理課の歌谷義昭課長は「災害時に情報を集める習慣が付くよう、訓練を続けたい」としている。(政網官規)